

ペットに対する

ネグレクト

アネア動物病院

院長 横町 亜佐子

ネグレクトという言葉をご存知ですか？

ネグレクトとは英語のNeglect(怠慢・無視)から生まれた言葉で、児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待などの心理的虐待、身体的虐待のことをいいます。

子供に対するネグレクトには育児放棄・育児怠慢・監護放棄があり、積極的ネグレクト(育児の知識不足や育てる意欲がないなど明らか理由がないもの)や消極的ネグレクト(親の経済的な不足や精神的な疾患で育児できないもの)に分けられます。病気になるっても病院で治療を受けさせない、真夏の炎天下に車の中に乳幼児を放置する、十分な食事を与えない、必要な教

育を受けさせない、汚れた衣服・

季節に合わない衣服の着用を強いる、家の中で監禁するなど健康状態を損なう生活環境、教育環境で育児をするネグレクトによる被害が年々増えています。

これは人に限ったことではなく、ペット(動物)にも当てはまります。

排泄物で汚れた不衛生な環境下での飼育、食餌を適量与えない、炎天下の目差しの中放置する、病気になるっても病院に連れて行かない、といった明らかかなネグレクトもあります。隠れネグレクトという飼い主に自覚がないネグレクトもたくさんあります。

犬によくみられる隠れネグレクトには食餌の与えすぎによる

過度な肥満、ノーリードでの散歩、スーパの前で長時間係留している、など病気や怪我の原因になるものもあれば、十分な運動をさせない(散歩に行かない)、一日中狭いケージの中でお留守番しているといった運動不足によるストレス障害を引き起こすネグレクトもあります。

犬は本来集団で生活し、リーダーに従うことで安心を得る動物です。

主人である飼い主の命令に従うしつけをしない、常に犬のワガママに応えることで犬が家族の中のリーダーになっている、これもネグレクトの一つではないでしょうか。

可愛がっているつもりでも飼い主の過剰な愛情や思い込みが原因で犬が社会性を身につけられずに育ち、分離不安症になったり、臆病な性格を作っているケースも増えているように思います。

抱っこしたり、一緒に寝たり、旅行に連れていったり、美味し

だけが「可愛がっている」ということではありません。犬本来の能力(犬種の得意な分野)を十分に引き出してあげること、それが満たされることで心も身体も健康な状態を維持していることが犬にとって「可愛がってらうっている」ことになるのではないのでしょうか？

「無知」もネグレクトの一つです。

これからペットを飼う人はその動物の生態、性格、飼育環境をよく勉強した上で自分の生活環境に合った動物を飼い、ネグレクトのない飼育をしてあげてください。

すでに飼っている人はもう一度飼育環境を見直してあげてください。

飼い主の経済的な理由や精神的な疾患などで満足な飼育や病気の予防・治療をしてあげられないのであれば、里親を探したり、動物病院や愛護団体に相談してください。

人もペットもネグレクトのない世の中になることを願います。



高齢者の肺炎

肺炎は、細菌やウイルスが肺に感染して炎症を起こす病気です。特に高齢者では、かぜや誤嚥ごえんをきっかけに発症することが多く、重症化して命にかかわることがあります。

日頃から十分な睡眠と栄養、適度な運動で体力の低下を防ぎ、口の中を清潔に保つことが肺炎予防につながります。肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンも忘れずに受けておきましょう。

ながた内科クリニック

院長 永田 宏

TEL041-369-0707

空気中を漂う病原体や有害物質が気道から侵入

肺は、呼吸を通して体内の酸素と二酸化炭素の交換を行っています。

鼻や口から吸い込んだ空気は、気管↓気管支↓細気管支と細かく枝分かれしていく気道きどう（空気の通り道）

を通って肺の中に入ります。気道の先端には肺胞はいぼうという球形の小さな袋が、ぶどうの房のように多数連なっています。

左右の肺には合わせて3億個く8億個もの肺胞があり、そのひとつひとつの表面を毛細血管が網の目のよ

うに囲んでいます。ここで、全身から運ばれてきた血液（静脈血）から二酸化炭素が肺胞の中に放出され、同時に血液は肺胞の空気中の酸素を受け取ります。

これをガス交換といい、肺の最も重要な働きです。

ガス交換によって酸素を豊富に含んだ血液（動脈血）は心臓に戻って全身に送り出され、肺胞に放出された二酸化炭素は、吐く息とともに体外に排出されます。

肺はこのように、気道を通して外界とつながっているため、空気中を漂う多種多様な有害物質（異物）が空気とともに肺に入り込む

うとします。これを防ぎきれず、細菌やウイルスなどの病原体が肺に感染すると、肺胞腔内に炎症を起こします。これが肺炎です。

異物を排除する働きが弱い人がかかりやすい

体には、異物を排除するさまざまなシステムが備わっています。たとえば、気道に異物が入り込むと、咳反射が起きて異物を外に出そうとします。

また、気管支の細胞表面には線毛せんもうというたくさんの細かい毛が生えていて、その上を粘液が覆っています。

粘液が異物をからめ取り、線毛が細い気管支から太い気管支に（口のほうに）向かって、そよぐように動いて、これを運び出し、肺の奥への侵入を防ぎます。この粘液が痰となって、咳の力で体外へ排出されます。

さらに、白血球の仲間のさまざまな免疫細胞が働いて病原体を処理します。

しかし、高齢者、慢性的な気管支炎や気管支ぜんそく、COPD（慢性閉塞性肺疾患）主に喫煙が原因で起きる呼吸機能障害）など呼吸器の持病がある人、糖尿病や循環器系などの慢性疾患がある人、喫煙者などでは、こうした防御機能が働きにくく、かぜやインフルエンザなどをきつかけに、肺炎を起しやすくなります。

肺炎は今、日本人の死因の第3位となっており（1位：がん、2位：心疾患）、その背景には後期高齢者の増加があります。肺炎で亡くなる人の95%が65歳以上で、80歳以上になると死亡率は急激に上昇します。

高齢者は症状に乏しい 誤嚥による肺炎も増加

肺炎の症状は、かぜと似ていますが、症状はより強く、38度以上の高熱、激しい咳、黄色や緑色の痰、呼吸困難、胸痛などが現れます。しかし、高齢者では、こうした典型的な症状が現れないことも多いので注意してください。

熱が高くなくても、元気がない、息切れが強い、食欲がない、呼吸が速いなど、いつもと違うときは、もし肺炎であれば、高齢者は重症化しやすいので、早く受診してください。

また、高齢になると、飲み込む機能（嚥下反射）が弱くなり、食べ物や飲み物、唾液など、本来は食道から胃に入るものが、誤って気管に入ってむせることがよくあります。咳反射も弱くなるため、これを外に出し

きれず、ふだん口の中にいる細菌（常在菌）が気管から肺に入り、炎症を起こします。これが誤嚥性肺炎です。食事中だけでなく、寝ているときに唾液や胃から逆流してきた胃液を無意識のうちに誤嚥していることもあります。これを不顕性誤嚥といえます。

誤嚥性肺炎は、寝たきりの人や、脳卒中の後遺症で嚥下障害のある人ではより起こりやすくなります。

かぜをひかないこと 誤嚥や脱水にも注意

肺炎を予防するには、日頃から規則正しい生活を送り、持病（基礎疾患）があれば、しっかりと治療や体調管理をして、体の抵抗力（免疫力）を落とさないこ

とが基本です。特に冬場は、かぜやインフルエンザに十分注意してください。外出時のマスクの着用、手洗い、こまめなうがいなどで感染を予防しましょう。

禁煙も重要です。喫煙は気管支表面の線毛機能を低下させ、細菌が感染しやすくなります。また、喫煙はCOPDの主要な原因です。COPDの患者さんは高率で肺炎を起こし、死因となることが少なくありません。毎食後の歯磨きやうがい、入れ歯の清掃など、口の中を清潔に保つこと（口腔ケア）も肺炎のリスクを減らします。

嚥下や唾液分泌などの口腔機能の衰えを防ぐには、口の周囲の筋肉を鍛える体操（飲み込み体操）が有効

ですが、簡単な予防法は、日頃から「よく口を動かす」ことです。ものを「ゴックン」と飲み込むときに使う筋肉と、話すときに使う筋肉は、9割くらい重なっています。人と話したり歌ったりして発声することが嚥下に必要な筋肉を鍛え、誤嚥予防に繋がります。

深呼吸も、よい健康習慣です。1日1回、ゆつくり自分の呼吸を意識してみましよう。深呼吸をして咳込んだり、違和感があれば、呼吸器系に異常が起きているサインかもしれません。

また、お年寄りには水分が不足しがちです。脱水は、気管支の線毛機能を低下させるとともに、全身の細胞や臓器に深刻な機能低下をもたらします。水分はこまめに摂るようにしてください。

インフルエンザと肺炎球菌のワクチン接種

睡眠中の誤嚥を防ぐには、10〜30度ほど上体を起こした姿勢で寝るとよいでしょう。

65歳以上の肺炎の原因で最も多いのが肺炎球菌です。次いで、インフルエンザウイルスやインフルエンザ（ウイルスとは別の細菌）などで原因不明の場合も多くあります。

また、インフルエンザが重症化したときに最も多く合併するのが肺炎で、高齢者では急激に進行して命にかかわることが少なくありません。

そこで、65歳以上の人を対象にインフルエンザウイルスと肺炎球菌に対するワクチンの接種が推奨されて

います。

肺炎球菌については、平成26年から65歳以上の人を対象に自治体（市区町村）による定期接種が行われています。

肺炎球菌には93種類の型があり、定期接種では23種類の型に対応する23価肺炎球菌ワクチンが用いられています。1回の接種で5年間効果が持続します。初めて受ける人には、1回に限り、接種費用の一部が助成されます。

また、13種類の型に対応する13価肺炎球菌結合型ワクチン（小児では平成25年から定期接種）が、平成26年6月から65歳以上にも適用できるようにしました。こちらは生涯に一度の接種で免疫をつけるワクチンですが、現在のところ任意接種で、費用の助成はありません。

「慈恵」作文募集

- ペットとの思い出、出来事など作文をお寄せ下さい。また、俳句、短歌もお待ちしております。（各三句（首）内）
※お手元の用紙でも結構です。
- 応募作品は返却いたしません。ご了承下さい。
- 住所・氏名・年齢・電話を明記し、慈恵院編集室宛までお送り下さい。

肺炎球菌とインフルエンザの両方のワクチンを接種することで、発症や重症化の予防効果が高まります。

インフルエンザワクチンは流行前の接種が効果的で、年一度の接種が必要です。特に肺炎が重症化するリスクの高い人は、積極的に併用接種を受けましょう。

葉の言



研 修



第46回 実践布教研究会 法相宗大本山 薬師寺 平成28年6月1日(木)～3日(金)

第46回 実践布教研究会
に参加して

佐藤 真祥

仏教伝道協会の研修の為、
薬師寺にて、玄装三蔵と鑑真
和上についての講義を聴講
致しました。
遥かな唐天竺に思いを馳せ、
襟を正す思いでございました。



ありていにするが安楽任授いて
隠すにまざる苦しみはなし

●本山：東京都府中市浅間町2-15-1 〒183-0001
TEL.042-365-7676 FAX.042-336-3888
URL <http://www.jikeiin.jp>

●足立別院：東京都足立区加平1-14-3 〒121-0055
TEL.03-3628-7676 FAX.03-3628-7679

編 集 後 記

「二ホニウム」……?

理化学研究所チームが成し遂げた新元素の発見は日本にとって「100年越しの夢」だった。それが113番元素として正式に認定されました。

それが「二ホニウム」。

暑い日がまだまだ続きます。

皆様にはくれぐれも体調をくずされませぬようお気をつけ下さい。

丙申長月

合 掌

慈 恵 秋季号 No. 56

平成二十八年九月一日 発行

発行者 永 田 恵 堂

編集者 長 岡 天 佑

発行所 一八三〇〇〇一

府中市浅間町二十五十一
宗教法人慈恵院 編集部
山一印刷有限公司
府中市浅間町三十四一九

〇四二一三六一五二二二